

令和7年度 第2回 学校運営協議会

1. 日時 令和7年9月25日（木）9:00～11:00

2. 出席者

（1）学校運営協議会委員

【委員①】元県立高校校長

【委員②】PTA 会長

【委員③】地元（中瀬4区）自治会長

【委員④】社会福祉法人 管理者 社会福祉士 精神保健福祉士

【委員⑤】一般企業代表取締役社長

【委員⑥】浜名区振興課課長補佐

【委員⑦】社会福祉法人 児童発達支援センター長 医学博士

（2）校内教職員

校長 副校長 教頭 事務長 小学部主事 中学部主事 高等部主事 自立グループ主任
教務主任

3. 会議次第

（1）会長あいさつ

（2）校長あいさつ

（3）マンホールトイレ設置訓練報告

（4）校内見学（30分）

（5）協議1「令和8年度けやき祭について」

（6）協議2「教職員の働き方について」

（7）各グループより報告

（8）今後の予定

4. 協議等記録

○会長あいさつ

今回はけやき祭の実現に向けての具体的方策について、話し合いをお願いしたい。また人手不足から出てくる働き方改革についても民間企業でお仕事をされている皆さんからの方策を伺って、学校ではそれを参考にしていきたい。

○校長あいさつ

8月23日に東京で全国知的障害PTAにおいてPTA会長様が「地域連携について」発表をされた。多くの皆さんが興味を持ち質問も多く出た。全国場で本校を発信する機会となった。

働き方改革について、限られた人員の中で最大のパフォーマンスを発揮するためにはという視点で考えている。学校としては子どもたちにしっかり返せるように授業づくりや子どもと触れ合う時間を確保したい。日課の変更や会議の精選を行ったがまだ改善の余地はある。今年はその中でも働きやすい環境づくりの取り組みとして、話しやすい雰囲気づくり「ととのうタイム」に取り組んだ。

○マンホールトイレ設置訓練報告（副校長より）

今年度は校内だけでなく、地域の方と取り組んだ。誰でも設置できるものではあるが経験することで必要な準備物など今後に向けての課題が見えた。トイレのドアの位置はどの向きにするか、どこに使うねじであるかすぐに判断できるように収納する等の検討、改善を行った。実際に水を流してみても、大変さが分かった。訓練実施の案内を100枚ほど地域に配布したが平日なこともあり参加者は学校関係者の3人だった。ここにマンホールトイレがあるということを地域の方に知っておいてほしいと思う。今後も地域の方と訓練をする機会を設定していきたい。

感想

委員③：設置場所がプールの横で水を流しやすい。全体的に使いやすさを感じた。地域への案内は全体計画の一部の掲載ではなく、今回の訓練のことだけを通知したほうが目に留まったと思う。実際に経験すること以上のものはない。

委員①：マンホールトイレの設置看板が学校のフェンスに提示されており、地域の方で知っている人もいる。子どもたちの在校時は子どもたちが優先と考えてよい。

閉校時の学校の鍵の管理をどうするか。以前、地元自治会に体育館や防災倉庫の鍵を渡している学校もあった。発災時には地域の人が入ってくると考えてほしい。プールの水も限界があると感じた。

委員⑤：マンホールトイレの全体像が分かる写真があると説明書を全部見なくても作れると思う。以前停電した際に夜の暗さが問題になった。足元が懐中電灯だけだと暗すぎた。また懐中電灯は手をふさいでしまうので危険であった。トイレに行くまでの道が明るく安全だと安心して使えることができる。

委員⑦：マンホールトイレの写真を倉庫の壁などに貼っておくとよい。地域のトイレ使用について福祉避難所をいつから始めるのか確認が必要。

委員⑥：11月7日に福祉避難所の説明会がある。正式なマニュアルができた。民間を含め、設置場所になっている施設に向けて説明が今後ある。参加をしてほしい。福祉避難所となると一般の受け入れができない。市から依頼があり、受け入れの準備ができ次第、開設となる。

委員③：8月の終わりに浜北北部中に避難する町が集まって会合があった。福祉避難室というものがあった。一つの教室が設定されていて体育館でなく教室での避難になることが分かった。

○校内見学

○協議 1 「令和 8 年度けやき祭について」

(1) 地域の方がけやき祭に期待することは何か？	
1 グループ	委員④：地域のイメージはどこを指しているのか。 校長：学校に関わる人や生活に関わる人を指している。 委員①：地域とのつながりを期待している。
2 グループ	委員③：全校開催は数年ぶりなので盛り上げを期待する。広報の仕方を工夫し、チラシはカラー写真で目につくものを。地域を回って生徒が手渡す、早い時期と直前の 2 度知らせるなどもよいのでは。 委員⑥：市で主催するイベントでは、業者に依頼してチラシを作成している。また、ホームページでも広く周知をしている。 委員③：学校がいう「地域」とはどの辺を対象としているのか。所在地周辺なのか、居住地も含むのかによって広報の仕方は変わる。
3 グループ	委員②：コロナ禍でけやき祭がなかった時期があるため、昔に捉われず、新しいけやき祭を作り上げていけばよいのでは。 委員⑤：子どもたちにとっては、学習を発表する場。学校にとっては、特別支援学校がどんなところかを知ってもらう場。浜北特別支援学校は、地域との連携を大切にしている学校。メディアを通じてもっと情報発信してもらってもよいのでは。

(2) 児童生徒は学習発表、作品発表、製品販売などの活動を行うが、そのような活動以外に地域の人と触れ合う、かかわりを広げるための活動はどんなことが考えられるか？	
1 グループ	委員①：防災の展示などをするのはどうだろうか？ 委員⑦：模擬店など生徒にやらせてみるのも面白いのではないか？ 委員④：以前のような福祉施設の販売を中、高等部と一緒に行う
2 グループ	委員③：教師主導でなく、生徒会などを中心に行い、頑張っているところを見てもらうのがよいのでは。 委員⑥：共同センターの催し、展示などに参加して地域との関わりを普段から作っておくとよいのかも。
3 グループ	委員⑤：地域の子どもたちが参加しやすい活動の工夫をしていけるとよいのでは。子どもが「行きたい」となれば親も自然と足を運ぶようになるのでは。

(3) けやき祭を広く地域の方に知っていただくための方法は？	
1 グループ	委員①：PR 活動に児童生徒が参加できるように。回覧板だけでなく一軒一軒チラシを配ったらどうか？ 委員⑦：生徒が SNS を使ってアピールできるようにする。

2 グループ	委員③：地域の展示会に出して知ってもらったり、地域の小学生の作品の展示をしたりする。
3 グループ	委員②：特別支援学校の情報を知りたい層に宣伝していくとよい。 委員⑤：実習先のスーパーなどにポスターを掲示したらどうか。

(4) 学校運営協議会委員の立場で、学校応援団として具体的にやっていただけることはありますか？	
1 グループ	委員①：学校運営協議会の存在をアピールしてどんなことをしているのかを周知していく。

○協議 2 「教職員の働き方と地域ボランティアの活用について」

(1) 3 分類の表を基に、本校で取り入れられそうな業務は何か？	
1 グループ	委員①：ボランティアでは、高齢化も進んでいて難しいことが多くなっている。 委員⑦：⑤の不当な要求等では、部署を設置して対応している。ケアで待機している保護者を活用できないか？
2 グループ	委員③：ボランティアをする方の年齢が上がってきている。①の登校時の見守りや交通整理を地域の人たちでできるとよいが、市立小の見守り隊もなかなか人がいなくて困っている状況で難しい。
3 グループ	委員②：予算的な部分はどのようになっているか。

(2) 地域ボランティアを活用する方法（ボランティアの募集、広報、調整など）	
1 グループ	委員①：ボランティアの高齢化が進んでいるが新たな団体となると難しい。
2 グループ	委員③：地域にチラシを配布して何をやってほしいか、困っているかを示してボランティアを募集してもよいかも。陶芸や木工など技術的なことを指導してくれるような方がいるのでは。
3 グループ	委員②：保護者が積極的に協力していけるとよい。 委員⑤：毎日参加をするのは難しいと思うが、従業員の自立支援にもつながるため、部分的に業務の担うことは検討できるかもしれない。

(3) 地域ボランティアとの連絡調整として地域学校協働活動推進委員には、どんな人が考えられるか？	
1 グループ	委員①：けやきの会、かやのきボランティアなどそもそもある団体を大切にしていく。

3 グループ	委員⑤：企業から学校に出向するという方法は考えられないか。企業にとってもメリットはある。教育委員会から依頼文などがあると企業は動きやすい。
--------	---

○今後の予定

今回、御意見をいただいた点について改善を行い、次回、報告を行う。